

《まめ知識》



プラスチックの先駆け セルロイド

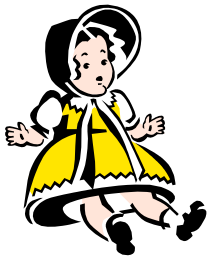
2009年7月

セルロイドと聞くとキューピー人形を思い浮かべる方も多くいるのではないのでしょうか。セルロイドは、紙や木を原料としたニトロセルロースというものに樟脳を混ぜたもので、象牙製だったビリヤードボールの代替として19世紀中頃に発明されました。その後、自由に形が作れ、腐らない、錆びないということから、天然樹脂の代わりとして、玩具、櫛、フィルムなど様々な日用品に利用され、日本でも一世を風靡しました。

セルロイドはプラスチックと同様、高温で柔らかくなり、低温で固まります。そして、天然材料なので、なんと土に還ることが出来ます！しかし、現在ではセルロイドを目にする機会はほとんどありませんね。なぜでしょう？

それは、セルロイドには『燃えやすい』という致命的な弱点があり、昭和初期にセルロイドが原因の火災が頻発したためです。『燃えやすい』という弱点から、後に発明されるプラスチックに取って代わられてしまったのです。

* 卓球に使用するピンポン玉は、今でもセルロイドが使われています。



Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号
TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)